

## 水田転換圃場でのキャベツ栽培（排水対策実証）研修会

【平成 29 年 11 月 21 日掲載】

「めざせ単収 5 t ! 水田転換キャベツ畑」を実現するため、実証圃を設置し、平成 29 年 11 月 2 日に中間結果を伝える現地研修会を行い、県内の大規模生産者並びに JA グループ・市町・県等の指導機関の約 60 名が参加しました。



県ではキャベツの生産拡大を推進していますが、県北部の水田は排水不良による湿害でキャベツの収量が低く、生産が安定しないため、県農業技術センターの開発した新技術「緩傾斜付与（1/500）と籾殻の大量施用（45 m<sup>3</sup>/10a）」によって地表排水を促し、水田で安定したキャベツ生産を行う技術を実証する目的です。今回の研修会では、地表排水促進の効果と重要性を確認しました。

実証圃の設置に協力した(株)vegeta の谷口浩一(たにぐちこういち)さんは、「11 月下旬から順調な収穫が期待でき、単収 5 t も十分に確保できそうだ。」と手ごたえを感じる一方で、「1 枚ごとに圃場状況が違うため、圃場のクセに応じた整備や調整を続けていくことも重要。」と話されました。

当指導所では、引き続き実証結果の検証を進め、水田転換圃場でのキャベツ生産の課題解決に取り組みます。



【湿地式ブルドーザによる緩傾斜化作業】



【籾殻の散布作業の状況】

情報提供元

北部農業技術指導所